

研修所の歩み

鼓童の研修制度は、1985年より始まり、当初は鼓童の舞台メンバー養成の目的で設けられ、試行錯誤しながらも25年にわたり継続してきました。今年は柿野浦の研修所が15年の節目でもあり、これまでの研修制度の歩みをご紹介します。



現在の研修所は二年間のカリキュラムで、一年目は広く人材を募集し、どんな将来の志望を胸に抱いている人でも学べる内容の総合課程、二年目は鼓童の舞台メンバー・スタッフを目指す人に向けての専門課程となっています。

鼓童初期の時代は、いわば「来る者拒まず、去る者追わず」というスタイルでメンバーを受け入れていました。しかし年々、公演活動が活発になるにつれ不都合が生じてきます。それは、入ってきたばかりの新人を何も知らないまま公演ツアーに連れていったり、指導する者なしに佐渡へ残さざるを得なかったりという状況です。そこで、ある時期にまとめて新人を受け入れるという研修制度を立ち上げました。

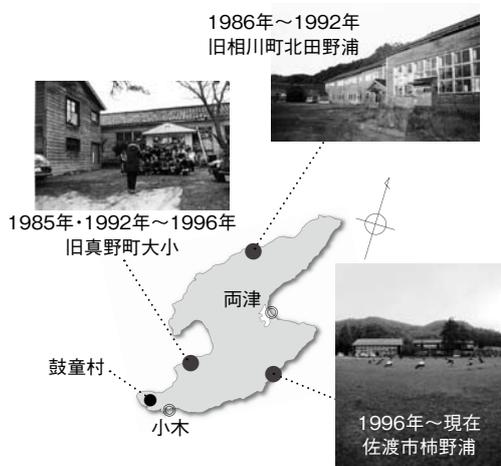
それから、研修所の場所や指導の立場の担当者の変遷がありました。が、研修生の指導を一人が担当し、判断していくことの難しさに直面します。鼓童という一つの集団として、研修生をどうやって育てていくか。複数の人間の知恵と経験を持ち寄れば、より総合的な判断に繋がるのではないかと。そこで、舞台メンバーだけでなくスタッフも含めて複数の人間が研修所に関わり、話し合って運営していく形になっていきました。

また以前から、舞台人としての表現の幅を広げるために人間本来の暮らしから学ぶ必要性を感じていたものの、公演活動との両立は難しくなってきた。そこで、一九九七年に財団が設立されたのを機に研修所

の運営を財団が行い、二年間かけて学ぶ体制を作りました。

柿野浦で始まった二年制の研修所は、それまでの研修カリキュラムが「鼓童」の舞台メンバーを養成することを目的に組み立てられていたのに対して、二年間のカリキュラムはスタッフ志望者を含む多様な才能と、鼓童に限らず広く社会に出て活躍できる人材の養成を主眼に編成されました。

基本の太鼓や踊りの稽古は、これまでは一年間という限られた時間の中で、ともすれば詰め込みがちになっていた部分を、二年間かけてじっくりと身につけるように。また、豊かな自然と生活に根ざした文化が息づく佐渡の風土の中で、地元の方々に先生になっていただき、実生活の中で農作業や祭りを体験し、佐渡の伝統文化や暮らしについて学びます。地域の方々に支えられ、応援していただきながらこの二年間は、研修生にとって、これから世の中で生きていくための土台を築く日々となっています。



向き合う日々

二年制になって、太鼓などの実技以外に農作業や伝統文化や暮らしの学びにも時間を充てることになった時、それよりも舞台の現場に上げるには、一にも二にも太鼓の稽古が必要だという意見もありました。現在、舞台メンバーの大半はこの研修所で学んだ者達となりました。今、彼らの姿を見て思うことは、太鼓以外の様々なものを学ぶことで得られること、太鼓だけに打ち込むことで得られること、それはそれぞれにあつて、ただ一番肝心なことは、その日々の中でどれだけまっすぐ太鼓に向き合い、またどれだけまっすぐ人に向き合ってきたか、ということなのだ。そうして歩んできた時間が、舞台の上での姿にじわっと滲み出ているように思います。

研修生は誰もが思いを持ってここにやってきます。皆がその思いをしっかりと持ち続けている限り、研修所はいいエネルギーに溢れて前進していけると思っています。ただ、二年の研修生活の中で、その思いを見失ってしまうことも出てきます。そんな時、彼らにどんな言葉掛けをしていけるのか。見失ったからといって、じゃあこんな夢を持ってみたらと、横から手渡すものではありません。持ってきた思いは何だったのか、なぜ見失ってしまったのか、それを日々のやり取りの中で、お互いに気づいていけるようにすること。所長としての私の一番大きな役割がそこにあると思っています。(談)

鼓童文化財団研修所 所長 石原泰彦

1985年4月 研修制度開始(旧真野町・大小時代)

当時の本拠地であった真野町・大小小学校跡地にて研修生の受け入れを開始。この初年度は、4月から8月までの5ヶ月の研修期間。鼓童の舞台メンバー、スタッフと生活を共にしていた。第一線で活動するメンバーの傍らで様々なことを吸収できる反面、稽古については公演のスケジュールの僅かな隙をぬって指導してもらえない環境であった。指導的立場の専任者はなし。この冬、研修所専用となる建物を探す。

(研修制度体験者7名中、現在籍者 山口康子)



パーカッショニストYAS-KAZ氏のお話を聞くメンバーと研修生。大小稽古場にて

1986年4月～1992年5月 北田野浦研修所開設(旧相川町・北田野浦時代)

佐渡の北西部、外海府の海辺の集落、北田野浦の元高千北小学校校舎をお借りして、鼓童の舞台メンバーを目指す者を募集し、一年制の養成機関である研修所を開設した。同じ目標を持つ若者が全国から集まり、ライバル心と仲間意識を育みつつ共同生活を行う。88年から鼓童が本拠とした小木までは、片道二時間。その遠さゆえにメンバーとの交流はほとんどなく、最初の一年は大井良明が、その後の六年間は近藤克次氏が所長として、稽古や生活を見守った。毎朝十キロのランニング、鬼剣舞、三宅、屋台囃子など稽古科目は基本的なもので、シンプルな繰り返しの日々であった。

この自然豊かなゆったりした学びの場を多くの方々と共有しようと、この研修所の生活スタイルをベースにした「鼓童塾」の開催も、この北田野浦の研修所から始まった。

(研修生のべ39名中、現在籍者 洲崎拓郎、見留知弘、千田倫子、根岸俊昭)



1992年6月～1996年3月(旧真野町・大小時代再び)

1992年3月、鼓童村に稽古場が完成し舞台メンバーの活動拠点が本格的に小木に移る。それと同時に、前年9月の台風により、甚大な被害を被り修復がままならなかった北田野浦の研修所から、真野町大小の施設に研修所を移転。93年から再び、大井良明が所長を務める。

鼓童の出発点となった稽古と生活の空間であり、先輩達の思いが染み込んだ、歴史を感じずにはいられない研修所であった。目の前の海に落ちる夕日は、歴代のメンバーの心を揺り動かす光景。今現在もこの大小の施設は舞台メンバーの稽古や研修生の年1、2回の合宿稽古などで使用している。

(研修生のべ33名中、現在籍者 新井武志、石原泰彦、今海一樹、鬼澤綾子、辻勝)



1996年4月～現在に至る(旧両津市柿野浦)

1995年に廃校となった両津市柿野浦地区の旧岩首中学校校舎をお借りし、研修所を移転。ここは、スタッフ・山中津久美の母校で、取り壊しが予定されていた校舎を活用させていただくことになった。1997年4月からは、設立された鼓童文化財団の運営とし、研修所を2年制とする。スタッフ志望の研修生の受け入れも開始。研修所の専任を大井良明、石原泰彦の二人体制とした。2007年より石原泰彦が所長となる。

2002年度研修生より25歳までとしていた年齢制限を廃止。2007年の入所者から、2年生に進級する者は鼓童の舞台メンバー、スタッフ志望者に限定。

2年制になり勉強の項目が幅広くなったことで、受け身の姿勢も出てきがちとなり、そのバランス、気力の充実を計っていくことが今後の研修所としても課題である。しかし、柿野浦集落の方々から成長を見守られながら、農作業や祭りなど一年限りではない実感を持てるようになったことは研修生にとって一生の宝物となる。

(研修生のべ102名中、現在籍者 松浦充長、土橋達也、船橋裕一郎、宮崎正美、石塚充、砂畑好江、小田洋介、阿部研三、齊藤美和、坂本雅幸、吉井盛悟、高橋勅雄、中込健太、前田剛史、島内博子、眞貝祐子、内田依利、小見麻梨子、草洋介、西村信之、高橋亮、藤本暢之)

研修制度体験者数=のべ183名

1985年～1996年(12年間)

舞台メンバーを目指した研修所体験者総数=93名

1997年～2009年(13年間)

2年制カリキュラム修了者数=90名